

露天保育と教育原理

倉 橋 物 三

大阪の橋詰良一氏が創設し、擴充せられた「家なき幼稚園」は幼兒の教育上、考への上でも社會的の上でも大なる意義を持つたものであります。その發展を皆祈つてゐたのですが、惜しむべし、今夏同君の長逝にあひました。私は嘗て同君のために左の如き講演をなじたことがあり、その筆記が保存せられてゐました。茲に同君の靈に捧ぐる敬意を以て年末の本誌に掲げることへしました。

一

幼稚園とか、學校といふやうな場所におきまして小さい子供の教育をしますものゝ何より困難とするところは何であるか、いろいろ實際上の難かしいところがあるのであります。その中でも最も困難とするところは教育の出發點におきまして子供に或故らな、懶らしい心持を與へるといふことが我々の最も心配して居る點であります。

勿論或方は教育といふものは子供にさういふ心持から出發させて行かなければ出來ないものだといふやうな、私共とは全く反対な考へをおもちの方もないではない。これから擊劍の稽古を教へる、兎に角鉢巻をして來い、襷をかけて來い、さうして道場に入れて擊劍を習ふといふやうな、故らな心持を持たなければ、特殊なる一種の緊張の狀態に入らなければ、教育といふことが始まつて行かないといふことを考へる方もあるのであります。勿論非常に特殊な場合におきましてはさういふ故らな心持から出發して行かなければ容易に教育の効果が纏まらないといふこともあるのであります。例へば宗教

教育といふやうな性質のものになりますといふこそその建物、その教室、いろいろなものを見た心持の起るやうに捨へて置きまして、その教室にはいるこゝによつて既に一種の宗教々育を受けるに都合のいゝやうな豫備状態を、子供の中に捨へて置く。そして其處でいろいろの宗教上の教育が始まります時に、子供も與へるものゝ心を受取易い状態において受取つて呉れるといふことが多分あり得ることでありませう。或はまた宗教々育といふやうなものにおいても必ずしもさういふ特殊な出發點を必要しないといふ方の考へ方もあり得るかも知れませんが、假に宗教教育といふやうな所謂日常生活^{ふだん}とは少し違つた種類の教育をして行く場合においては、いろいろな方法によつて出發點から特殊な心的態度を子供に持たせて置くといふことが、少なくとも便利なことであるかも知れない。こゝろが普通の教育即ち生活に出發して、生活を通して生活に終るこゝろの教育といふ意味において、この所謂普通な教育を與へる場合におきましてはその特殊なる心的態度を子供に豫め持たせるといふことが非常に有害なことがあつて、そのために本當の教育を得ない結果を生ずることが大いにあるのであります。

我々の長い間教へられ又今日現にやつて居ります總ての教育機關の働きといふものが、學校にしましても幼稚園にしましても、特殊なる心的態度を子供に豫め要求することからのみ出發して居りますから、時にはその點を心付かずに過ぎることがある。さうも斯ういふところでは子供が教育を受けるやうな心持になつてくれないから教育を與へることが出来ない。斯ういふ柱、斯ういふ壁、斯ういふ天井ではない。教場は教場らしく、學校は學校らしく、幼稚園は幼稚園らしく一定の豫備感情が漲きるやうな設備をしてからでなければ脇道に反れ易い。羽の生へたやうな心持をもつてをる子供の心を思ふやうに纏めて行くこゝは決も出來ないといふやうなことが多く考へられてゐるのであります。併ながらこれを他の方面から考へて見ますと、態^{たま}らしき特殊なる或心持から出發するこゝろの總ての生活は、態^{たま}らしきといふ、その故

らなる心こころいふものが日常の子供の、所謂純真なる状態に對して、或は「セルロイド」の如く、或は「オブラーート」の如く、或は牛乳の上に出來る薄皮の如き極く薄いものではあるかも知れませんが、その純真の上を掩ふ隠す何物か、其處にあるこころいふこころは考へられる。その極く稀薄なる掩ひものであります、それが子供の純真なる生活を上包みしてゐる時には、所謂教育きょういくその子供こどもとの間に微かながら一種の隔てが出来るのであります。或はその隔てが可なり濃厚なるものこころなつて教育きょういく子供こどもの間に大きな垣根はざなを造つて居ることもあり得るのであります。その垣根はざなを造つた上において、子供の純真なる生活を發揮させ純真なる生活に訴えてのみ生るこころの純真なる教育が出来るこころいふこころは到底不完全なこことであります。

總て人間のこことは眞實の上に出發しなければならんこいふこころは我々の常に學ぶこころであります、人間の最も眞剣なる仕事であり最も眞實であるこころの教育が誤りをもつて居つても汚れをもつて居つても構はないこいふこころは有り得べからざるこことで、斯かるものを以て子供に對して眞實の教育をするこことは到底考へられないことであります。近來はその點からいろいろ考へられて居りまた教育上における自由じゆゆいふこころが頻りに尊重されるけれども、その自由じゆゆいふこころは教育におきましてのみならず總ての人間の生活において非常に大事なものであつて、不自由じゆゆ無理むりによつて何人の眞實なものも得られないこいふこころは云ふまでもありませんが、その自由じゆゆいふこころを眞實に得るがためには何によつて出来るか。昨日は志垣君の極めて意味深いお話をあつたさうであります、私はその題を拜見して日頃御懇意にして居る志垣君の云はれた意味の大體を推測するこことが出来るのであります、人間性じんげいいふこころに信頼するこことによつてのみ、人間の自由が可能であるこいふこころの意味であつたらうと思ふのです。これは自由じゆゆいふこころを可能ならしめてゆくこころの内容的第一原理だいいりとしてさういふこころが云へるのであります。人間を信するこころによつてのみ自由を與へるこいふこころ

は、これは自由を可能ならしむる内容的原理として非常に大切な眞理であります。そこで私はその意味深い内容的眞理以外の方面からこの問題を觀察して、即ち内容的方面でなくして生活の形式的方面からこれを考へて見まして、眞實なる自由の生活はその出發點において眞實が與へられてるのでなければ出來るものでないといふことを云はうと思ひます。

一

今日の教育において自由といふことを頗りに尊重するところの議論は既に實際問題になりまして、如何にして子供の生活を自由ならしめやうかといふことに非常に多くの人が骨を折つてゐるのであります。多くの場合において子供の生活の出發點のことはあまり考へずしてその成育の途中を如何にして自由ならしめようが、即ち或不自由な状態に子供を導きまして、しかもその中で如何にして自由を得させようかといふことに、今日の努力が限られ、或はこゝまつてゐるやうな感じをもつのであります。何故もう少しその出發點に廻つて其處から自由といふものが生れて來なければならぬやうな出發點を子供に與へる事が工夫されないかといふことは我々の考へてもいゝではないかと思ふのであります。この意味におきまして、私は所謂露天幼稚園、或は家なき幼稚園といふものに非常に好都合なる積極的意義、價値、長所といふものを發見するのであります。

今日小學校なり幼稚園なりの建築におきまして少し進歩した人の考へます苦心は、如何にしてその部屋にあるところによつて、この門をくぐることによつて、あの自分の家に居る、往來に居る、野原に居る同じやうな日常の生活の心持で、その學校にあり得させるやうな心持を子供に持たせるやうな建築が出來ないかといふことにあります。しかつめらしい教壇を撤廢しなければいけない、特別に或中心となるところの「ボーラード」の設備を撤廢しなければいけない、特別に教師だけを中心とするところの机の置き方を改良しなければいけない、人々の生活をなし得るところの當前^{あたりまへ}の場所として

の教場を工夫しなければいけないことは皆考へるのであります。即ち小學校の教室は次第々々に仕事場に變つて來る。幼稚園の保育室は次第々々に家庭の子供部屋と同じ變成つて來る。今日少し進歩したところの幼稚園、學校の建築を見まして、これが教室ですか、これが保育室ですかといふ疑ひを、或種類の人は持つ傾向が現はれて來てゐるのであります。この傾向を最も徹底的に實行したものは寧ろその床を去り、家根を去り、柱を去つて、露天、戸外、野原、往來、神社の境内、田の畠、川のふち等であり、あのありの儘の自然の中に子供を放つることによつて、この態こらしい、故なる心持から子供の教育を出發させるこを如何にして避けようかとわれくの苦心してゐる問題が、其處に解決されるのであります。

「モンテッソリー」といふイタ利の幼兒教育者が、やはりこの點から從來の幼稚園といふものに非難を加へ、机をきちんと並べて置くこと、及び教室を小さく仕切ることに反対して、机なき幼稚園といふやうな言葉において現はされるかも知れない一つの主義を立てました。世界の人は非常に其處に共鳴しまして、これが大いに諷はれたのであります。その机なき幼稚園から更に人間の造つた建物といふものゝない幼稚園に徹底的に進んで行く道が、即ち露天幼稚園或は家のない幼稚園でありませう。斯う考へることによつて家のない幼稚園といふものは、家がないといふ消極的の意味から一大轉化しまして、全く幼兒教育原理の積極的思想に基くものに、我々の考へが向つて來るのであります。家を建てるお金がかゝる、廣い特別の地所を所有せねばならぬ、そこで家がなくとも幼稚園が出來るといふ觀念は、この家なき幼稚園、或は露天保育といふことから見て、我々が先づ取り去らなければならぬ考へで、家がなくとも幼稚園が出來るといふではなくて、家があつて邪魔になるといふのが、この露天幼稚園の積極的の考へ方であると思ふのであります。

この中には御家庭の方が多いやうでありますから、よく斯ういふことをお思ひになるかも知れません。家庭で子供を教

育するといふことが必要だゝ聞いてゐるが、家庭には座敷だけしかない、茶の間だけしかない、火鉢の周圍しかない、庭しかない、學校に行つて見るやうなあの教育の場所がない、故に家庭では教育が出来ない、學校へ行く子供は家庭にある時こゝは違つた状態になつて教育を受けてゐる、家庭で云ふことを肯かない子供が、學校へ行くと驚くべき緊張振を示してゐる、家庭では十分間もぢつとしてゐない子供が學校へ行く機の前に四十分間もきちんとしてゐる、實に教育は偉いもの、學校は偉いものと考へる方があるかも知れませんが、私共はそれとは逆の考へ方です。あの家庭では様側で足を投げ出し、或は茶の間で寝そべつて、しかも充實して本を読み、充實して繪畫を描いてゐる子供が我々の教室に來ては故らな緊張を示してゐるのに寧ろ多くの憂慮を感じるのであります。鉢巻をして武藝を習つたものは、或は鉢巻を取るゝ武藝が出來なくなることがないとも限らない。制服を着れば勇氣の出る人間が、制服を脱ぐと臆病にならんとも限らない。今日の所謂故らな教育から出發する態度においては或はこれに類することがありはしないかと思ひます。學校では癖がついてゐる、教場がないと本教育が出來ないといふが、故らな場所、故らな教育は何を意味するだらうか、それは實に眞實の教育ではない。この意味において私は子供の純眞なる生活を形式的に妨げてゐる一切のものをかなぐり棄てゝの教育主義を非常に重要なものと思ふのであります。「家なき幼稚園」といふものは、大阪におきましては橋詰さんの創造に基き、橋詰さんの御工夫によつて實現して居るので、今日も寶塚、池田の二箇所を拜見しまして、私はこんなによく實現し得られるものかといふことを實際に拜見して來ました。併ながら大阪において實現して居るのは、この一つ、或はそのあたりにありますところのものであります、總て昔から眞實に子供の生活に觸れて行かうとする教育者は皆さういふことは考へて居り、或はその心持をもつて始終悶へ悩んで居つたといふことが出来るかも知れません。

私はフレーベルの古蹟を行脚して到る處において、此處でフレーベルが斯ういふことを考へ、斯ういふことをしたか。

非常に興味を覺えましたが、その中でも特に駆々たる興味を感じさせられたのはリーベンスタインの温泉であります。これはフレーベルが、既に晩年に至りましてフレーベル幼稚園原理の最も成熟した極度の時で、フレーベルは其處で死んだのであります。即ちフレーベルの理想主義が芽を吹いてゐる時ではなくて成熟した時期であります。フレーベルは其處に保育養成所を建てまして自分の考へを若いものに傳へるといふことに於いて最も努力し、傍ら幼稚園を造つて子供と共に暮して居つた場所であります。それは山の横の一寸した平地にある建物で、何とかいふ人がフレーベルのために與へて與れた相當に立派な建物で、その建物から一寸出ますといふ。直ぐに何の木でありますか、密集した森林になりますて、その森林の中を爪先あがりに行きますと、程遠がらぬところに打ち開けた、一つの丘のやうなところにあります。その丘の上に参つて見ます四方に森林地帯を圍んでゐる山が見えてゐて、その下に實に美しい景色が展かれてゐます。その森林の外れのところに石を積みまして、その地點を記念してあります。私はフレーベルが晩年に事業を大成したところの建物を見て、それからその森林の中を馬車屋と一緒にぶらへて通つてその丘の上に來ました時に、實に其處にフレーベル研究の一番大きな教訓を得たやうな心持がしました。フレーベル云へばあの二つの大きな著述を現はして居ります。その教育學及び教育方法が本體となりまして、獨創の恩物を如何にして使うべきか、或は作業を如何にして指導すべきか、それにはフレーベルの實に深い哲學と獨特の教育的識見とがまさりまして、非常に意味深いものが出來てゐます。我々はフレーベルといふと直ぐにその教育方法を聯想し恩物を如何にして用るべきか、如何にしてフレーベル主義の作業に合するやうなことが出来るかといふことを非常に心配するのであります。ところがその森の端に行つて見ますと、其處がフレーベルが幼稚園の子供達を連れだしては遊んだところの場所であります。私想像して見ますに、フレーベルはその幼稚園の建物の中へ子供を集めて、或は第一恩物、第二恩物を與へ、若くは玉繫ぎをさして居つたであります。

窓の外には其の明らかな日が當つてゐる。フレーベルはその自分の生命を籠めた哲學原理に基いて居る教育方法を、子供に、部屋の中で机を置いて奥へて居りながら、心の中には、これが本當だらうかといふ不安定が、何處かに起つて來たのであります。しかしその與へるもの、それ自身の原理は、フレーベルは確信をもつて信じて居るのであります。其處には何等の不安も有たないのでありますけれども、その教育の方法を離れて、子供の生活それ自身に、一寸でも心が行きました時に、これが子供と一緒に生活してゐる眞實の姿であらうか、これが本當の子供を活かしてゐる眞實の或時間であらうかといふことは、あのフレーベルの心持の何處かに響いて來たのではなからうかと思ひます。

「サア出かけよう。恩物も片付け、作業もしまつて、出掛けよう。」

こいつてフレーベルは先に立つ。放された子供達は、扉を開けてぱつぱつと出掛け、あの直ぐな道を、林の中を通りて、さうして朝らかな日の下に、柔かい草の上に、きやつきやと遊んだといふことは、想像するだに、實に低徊去る能はざる思ひをした。フレーベルは必ずしもそれを書いてはゐません。恐らく書くことも出來ないほどの、意識に上らないほどの、眞實な瞬間であつたのではなからうかと思ひます。教育のために子供を連れ出して行くといふならば、或理窟がありませう。理論が成立しませう。しかしさうでなくしてフレーベルはその教育の理論から出發したところの仕事をしてゐるうちに、児童の純真なる生活が犇々と迫つて来て、ぢつとしてはゐられない心持でのみ、外へ、丘へといふ風に飛び出したのではないかと思ひます。フレーベルはそれについては何にも書いてはゐません。併ながらフレーベルに親炙してゐた人々は、その瞬間を實に尊敬をもつて見たのだと思はれます。しかし村の人々はその光景を見て始終笑つてゐた。リーベンスタイルに居たフレーベルの晩年は村の人々から馬鹿老爺と通稱されてゐて、現にフレーベルの高弟となつたマレンホルツ・ビュロー男爵夫人が、このリーベンスタイルに來て宿屋の主人にこの村に何か面白いことはないかと聞かれた時に、その宿

屋の番頭が別に變つたこゝはないが近來妙な馬鹿老爺が来て、年甲斐もなく、子供と一緒にきやつきや遊んでゐます。御散策がてら御覽になつては如何云つた位村の人々は無理解でありました。しかし流石にマレンホルツ・ビューローは、後にフレーベルの第一の弟子になる人ですから、其處に或意味を感じて、丘の上へ出て教壇に立つて威嚴ある教師として子供を教育せずして、草原の上で、實に馬鹿々々しく、きやつきや騒いで、子供を遊んでゐる。そのフレーベルを訪ね、マレンホルツ・ビューローは其處でいろいろの話を交換したこゝであるが、實に馬鹿老爺と云はれるほどの眞純さに歸つてゐたのであります。これは實に家なき幼稚園、フレーベルの露天保育だ私は思ひます。フレーベルが彼の幼稚園の部屋の中で何分の時間を使ひ、何分の時間をその森で使つて居つたか記録がないので私は知りませんが、フレーベルの本當の心持に或理解をもつて見ますといふことフレーベルは恐らくその智的の理解の方から來るこゝの教育としての恩物作業を考案しましたけれども、あの獨特な兒童を見る天才、兒童の生活に眞實に觸れるこゝの教育天才としてのフレーベルはその野原で遊ぶ方に、より多くの教育意義を發見して居つたのであらうといふことを思ふのであります。

今日見ました池田或は寶塚の幼稚園の子供が、實際にどういふ状態に居るのか、先生方がどういふことをして居られるのか恰度休日で拜見するこゝが出來なかつたのを非常に殘念に思ひますが大體の光景を想像するこゝが出來ます。それは勿論人間のするこゝでありますからいろいろな誤謬があり、無駄もあります。しかし凡ゆる誤謬、凡ゆる無駄を退けて、あの光景の一番奥底にあるものは何かといふこゝ子供の眞純なる明らさまなる生活です。それがあそこに溢れて居、それに引き付けられて、先生も教育者であるといふことを忘れるほどの眞純なる我に歸り、自然の眞純なる、明らさまなる松の木、もごから飾るこゝのないあの河原の小石と一緒に自然に合體するこゝの或生活が行はれて居る。それだけは信じて疑はないこゝであります。その光景を美しく楽しく眼に描くばかりでなく、實にそれが非常に意味深きこゝだ私は

は染々感ぜざるを得ないのであります。

三

このことはもう別にそれ以上細かく論議して行く必要もないほど判り切つたこだと思ひます。我々が眞純なる児童の生活の實際に對して、非常な尊敬を持つならば、その最も樂々實現される方法として、あの露天保育といふものゝ意義を感じるといふ、それだけで別に議論もないことであります。たゞそれと同じことですが、私がもう一つ別の方面から考索して見たいと思ふのは、今日の普通の教育においては總てが先生の方の立案を以て終始して居る點であります。教育は立案的の仕事なりといふ意味は廣い意味にも狭い意味にも考へらるゝのですが、今日の教育においては、それが非常に狭い、隨つて窮屈な意味に考へられまして、もとより立案の計畫、平らな言葉で申しますならば教師の思ふ坪に、子供を入れて来る時においてのみ可能になり得るやうな教育といふことをやつて居るのであります。ミニコロが實際の教育は児童の生活そのものに出發し生活そのものを通して生活そのものに終るものであるこしますならば、如何に先生が、或は教育の學理に基き、或は學問的児童研究の研讀に基き、児童の生活に適ふ世界をもつて、其處に計畫を立てゆきましても、その子供の生活といふものが、その子供に適應するかさうかといふことは、非常に難かしいことです。児童に完全に適應する計畫は出來ない、或は児童の大體の生活に、大體においていつでも適應するやうな案を立てることは出來ます。しかしこの子供の瞬間に起る生活こびたつこ合つた立案を立てることは、到底教育心理及び児童心理學の研究によつて得られるこことでない。其處は悉く先生が機會を捉へるこころの明敏なる、或は敏活なる働きに待つより外仕方ないのであります。今日の學校を御覽になりますと、あのきちんと計畫されました時間及び順序まで極つて居つて、先生は悉くその立案を以て出發してゐる。さうしてその立案の中にさうして子供を入れて行かうか、さうして脱線しないやうにしようかといふ

ここに努力が費されてゐるのであります。そのために子供自身は先刻も申しましたやうに、自分自身の有の儘の心の態度に居れぬのみならず、先生自身も折角生きて動くよい心をもつて居りながら、自分の作った立案に、或は豫て拵へてある主觀的順序に捉はれてしまつて生きて働くことが出来なくなり、極端に申すならば教育の原理と児童心理との知識によつて教師も束縛され、狹められて、自由に伸びるところの才智才能を發揮することが出来ないで居るのが、今日の状態であります。斯ういふ風にしてやつて行く教育が、児童の上に非常な損害を興へ非常な不利益な結果を來すばかりでなく、先生自身にも非常なる損害を來すのであります。このことを或言葉をもつて申しまするならば、興へられたまゝに流れてゐるところの生活に對して教師だけが總ての機會を捉へ得る力によつて教育をして行くといふことが困難になつてしまつて居るのであります。生きて居る生活を特別な、故らな中へ盛つて終ふることによつて子供を殺します。同時にまたかういふ風な順序で、かういふ風に行はなければいけないといふ窮屈な言葉の中に置くことによつて、教師が殺されてしまひます。この雙方から殺された教場が生命のない、感じのない、鈍い、よきんだものになるといふことは當然のことであります。その先生は他では相當氣の利いた人でも教場にはいること、教育に膠づけられるることは屢次見るところであります。これをさうしたらその先生の存分な才氣を自由に伸ばし、實行させ、機會々々において適當な教育を興へて行くことが出来るようになさせ得るであらうか。

これは今日の學校においても可なり苦心し或は幼稚園においても同様に苦心して居る問題であつて、それがあの田の畠、河の側或は草の上で行はれるところの露天保育、家なき幼稚園といふものにおいて非常な有利なる條件を備へて居るのであります。

教育は勿論出鱈目ではありません。勿論教育に當つては教育者としての或心準備といふものを持たず居れない。併な

がら教育はこつちから與へるものではなくて、先方こちちらの間に存在してゐるものであります。こちらだけの計畫をもつて終始しようとする時に本當の教育が其處に出來ないことをいふまでもない事であります。このことは家庭においても屢々同じやうな誤りが繰返されて居るかと思ひます。教育いふものは、特別な計畫を立てゝ、その計畫通りを、或時間の間實行して行くのでなければ出來ないことを考へに基いてゐる母親達は折角子供に本當の教育の出来る機會を與へられて居りながら、これは教育の時ではない、教育の場所ではないといふ下らない束縛のために、これを失して終つてゐます。

學校教育ならば、その學校教育が根本的の主義に無理な方法に出發してゐるから已むを得ないとして、家庭で朝子供と一緒に眼が覺めて床の中で、或は子供が先に眼を覺して何か話しかけることがありませう。その時にまあ教育は起きてからさか、或は一緒に顔を洗つて居るうちに子供がいろいろな生活をしませうが、これも午前八時こか九時こいふ教育の時間にならなければ始まらないからいけないといふやうな考へ方は今日の家庭の教育效果を下げて居る一つの點こ思ひます。或は子供と一緒にマーケットに行つて野菜を買ふ時、こんなによい博物教授の出来ることはありません。或は子供と一緒に帽子を選んでやる時にこんなにいゝ色彩教育の出来ることはなし。或は涼臺で子供と一緒に星を見てゐる時に、こんなにいゝ天文學の教育の出来ることはなし。或は爐邊を圍んで居る冬の夜長に、この位情操教育の出来ることはなし。しかも斯ういふ時間は實に無駄に過されてゐる。これは教育を餘りに膠つけて終ふところから、お互ひが受けてゐる實に惜しい損害を思ひます。ところが家なき幼稚園はこちらの方から子供がふらつて來る、こつちの道から先生がいらっしゃる。その打つかつた時に教育が始まるといふ、そこに故ならぬ先生の或働きが子供に行く。また子供の生活の意味のある、内容のある断片こといふものが其處に展開して來るのであります。家なき幼稚園は子供を連れて先生が歩いてい

らつしやる時に「先生、この草は何といふ草ですか」「これは三年生になつてから教へる等の教材になつてゐるが、今はお答へしない」、或は往來を歩いてゐる時に橋がある、橋を渡らないでこつちの溝の方を飛んで見たい、河が子供の前に横はあることは子供の足にスタートを與へるよりも、心にスタートを與へる場所であります。それを本當に飛ばうとしてゐる時に先生は「今他の話をしてゐる時だから飛んではいけない」といつたならばこれは實に無意味な事であるばかりでなく、そんな考へはそんな窮屈な先生に雖も、戸外においては起り得ないのであつて、この凡ゆる機會、凡ゆる瞬間、凡ゆるもののが子供に或興味を引き出して先生もまた、それに同じ興味を感じ得て、雙方がぱたつと合つたところに總ての機會が教育になつて来るといふことに最も可能なる條件をもつてゐるものとして、露天保育が非常の意義をもつてゐる。子供が自發的にまた自動的に生活せねばいけないといふことは古い事ですが、近來でも頻りに云はれます自發といふことは何によつて起りますか。それは子供が興味が起るやうになつて自然に興味が起るのであつて、自然にその興味を起して来る生活は何によつて起るか、これは決して言付けたり、引張り出したりして出来るものではない。

四

この頃はもうして子供に自發生活をさせようかといふことを考へて、どうか自發をお出しなさい、自動的におやりなさいといつて睨めつくるをしてゐる教育家があるのであります、下の方から温めでもすれば、何かむくく出て來る文福茶釜のやうなものも、或は有るかも知れません。さあ自發しなさい、それでなければ教育が出來ないといふても、自發は勿論、子供の中から出て來る筈ではありますけれど、出るには出るだけの引っかかりが無ければ逆も出て來るものではあります。子供の心は實に生活に満ちてゐて、機會あれば飛び出すやうなものには相違ないが、たゞ飛び出せ／＼いつてもさう無暗に飛び出すものではない、建築においても力のバランスをとらなければあつて、いろいろの力が平均して来て

はじめて偉大な力を出すやうに、子供の内的生活は非常に壓搾された空氣のやうに引締つてゐるのであります。自發的の子供を心の軽いふわくしてゐるものと考へるこゝは大きな間違ひで、眞實の子供はどうしてあゝかと思ふほき、自分の中に満ちてゐる力を何處へどういふ風に出さうか、殆んどう出していゝか判らないほさんゆる力の平均が出來てゐるのであります。これを全部一度に出せといつたら坂を轉げるより外仕方がないであります。多少の系統ある、順序その充ち満ちてゐる内的充實を、或點に向つて出させるのが即ち自動生活、自發生活であります。ある方法によつて出て來るやうに導いて來るこゝろに機會が副ふて行かなければならぬ。或人は兒童心理學的の或一つの言葉を使つて、かういふことを申します。

「子供の中にはいろいろなことに關する本能的興味がある、子供といふ袋の中には雲雀に對する興味もあり、蛙に對する興味もあり、蝶に對する興味もあつて、それが時々出て來る」云ひます。しかしこの興味のもつ一つ根本的なものは、子供の心には何にでも適應する興味そのものが壓搾空氣の如くはいつてゐるのであります。豫め蝶にだけ適應するだけの興味が、何處かにあつたり、蛙にだけ適應する興味があるのではなく、子供の中に充ち満ちてゐる興味生活には、渾然として一つの力そのもの、興味力そのものがいつてゐるのであります。それが野に出て蝶々が來れば蝶々に向つて、その全體の力が注がれて來るので、蝶々へ出した興味が、蝶に關する興味だけで出て來るのでなくして、全體として充ち満ちてゐるこゝろの生活、或は生活の力がその蝶に向つて出て來るのであります。あの子供の興味は手品師が使う魔法瓶の如く、斯うやれば赤い酒が出たり、あゝやれば青い酒が出るやうに、豫めいろいろ仕組んであつて其處へ現はれ出て來るものではなく、實に人間生活の力が一杯あつて、それが與へられた機會において與へられた問題に向つて注ぎ出て來るのであります。兒童心理學といふやうな客觀的の見方による蝶に對する興味が出て來る云ひますが、子供の生活の力的解釋から

見て行けば、今申上げたやうな解釋を下さねばならんので、この意味から申せば凡ゆる子供が實に自分の力に持ちあぐむ程充ち満ちてゐるものもつてゐるのあります。ところで自動生活、自發生活といふものは、子供自身が、その自分のもつてゐる力を無理に人から引出されたのでは自發生活にはならないのみならず、自分で出さうと思つても自發生活にならない。意地の悪い性質をもつてゐるものであります。學校の先生が子供を前に置いて大いに自發的にやらなければいけないといふこと、子供が、今大いに自發的にやらうとしてゐるところで下さいふやうなことは、全く自發生活は閉塞して終ふ。しかも授業終りといふことで廊下に出れば、其處に自發生活がぱつと出て來るのであります。

自發生活を發揮させるにはどういふ風に我々はせねばならぬか。それには不用意なる機會、不用意なる力が其處になければならないのであります。歌などにはよく春の野原に遊んでゐる子供を形容して、蝶々が招く、蝶々が招くからそれに釣られて子供が行くといつて居りますが、若しも子供に蝶々がおいでなさいといつて招いたならば子供は却つて蝶々の方には行かなくなるかも知れない。或子供はその招きに應じて行くかも知れません。しかしその行けない子供には呼んでさうするのだ、踵いて行つてさうなるんだといふ。また行く方の子供は向ふへ行く美しいお姫さまが澤山居て、何かいゝものでも呉れるのかといふやうな、童話の世界を考へて踵いて行くかも知れません。おいでなさいと云はれるゝ、もう行く氣が無くなるか、若くは行つてさうなるかといふ二つの心が屢次起ります。しかし蝶々は決して招いてゐるのではない、自分は勝手に飛んでゐる、その不用意なる獨特の力、あの力に子供の自發性が引摺り出される。自然に出されたところのその不用意なる、しかも不用意なるが故にのみ持つところの大いなる力が子供の上に及んで來るのであります。先生自身が不用意に馴らされなければ子供にも眞實に自發生活をさせることは出來ないといふのが、今の私の考へであります。

私は子供の時のことは忘れました。随つて今の子供の中も判りませんから、子供が實際にどういふ風に思つてゐるしか想像することはなかへ困難であります。恐らく今日の教育を受けてゐる小學校や幼稚園の子供が始終思つてゐるはるないかといふことは、勿論先生は有難い人だといふことは思ひませう。親切な人だといふことも思ひませう。しかしこの外に先生は何故あんなにしつゝこく仕掛けで来るだらうかといふことを、可なり思ひはしながらうかと思ふのであります。少し下品な言葉で云へば教師は常に子供に煩さうきがられてゐると思ひます。必ずしも教師ばかりではありません。所謂教育に熱心なお母さんも大體想像してよいと思ひます。子供が臺所の方へぶらつゝ行つて見るゝ春の陽を浴びてお母さんが張物をしてゐる、「へゝ天氣ですね」お母さんは張物の手をも休めないで「さうだね」といふ「その着物は誰の」「これは坊やの着物です」「さう」それで子供は置きたいのです。然るに子供の薩張りした心を、所謂教育に熱心なるお母さんは振り返つて、其處で子供に向つて教育をはじめて來る。その時に子供は「はじまつたな」と思ふか、又は「實にしつゝいな」と思ひませう。或は「お前は少し野原へ出て駆けなければいけない」といつて、お母さんでも先生でもが一緒に駆けます。そしていつゞ駆けながら子供が後ろから踵いて行くと、ふり向いて「駆けてゐますか」或は「早くおいでなさい」といふかいろ／＼なことを、ちよ／＼云つて呉れる時に子供が「實に煩さい、しつゝ」いふ感じを持ちはしないかと思ひます。私は教場で小さな子供に會つてゐる時に、いつもそれを感じます。一番困るのはそのしつゝさが子供の自發性を妨げるこれを非常に考へる。子供はもう終ひには顔を見ただけでうんざりする。家へ歸るのはいゝがあのしつゝい顔を見るのがいやだといふことになる。親も堪りません。學校に行けば先生がしつゝい顔を見せる。子供はもう少し何處かさつぱりしたところは無いかも考へる。その時に野原へ出る、犬が獨りで駆けてゐる。お伽話には「さあ、行きませう」と書いてあるが、あれは嘘つ八で、若しました犬がそれを云つたならば子供はまたしつゝいと思ふ。しかし實際の犬は

不用意なる力で駆けてゐる。その時に始めて本當の純真なる子供の自發生活は出て來るのであります。

こうがこの人生の不用意の價値、殊に教育における不用意なる價値を徹底して或は學校なり幼稚園の先生が、これら不用意でなければいけぬ、しつゝいと思はれるのはいかんといつて、教室にはいつても子供のゐるものも知らないで、すつゝ向ふへ突き抜けて終つても困る。子供は「この頃うちの先生馬鹿に薩張りしてまたお通りだ」といふやうでも困りませう。しかし若し子供の方が凡ゆる不用意から、凡ゆるものを受け取るならば、それもまた面白いものであります。普通の幼ない子供に對しての不用意はさういふ不用意ではなくて、子供と大人と共通なる問題に對して、雙方が不用意なる機會を作つて來なければならぬ。禪宗の寺へでも行くと禪僧がこちらから一人來る、あちらからも來る、さうして行き會つても合顧みもせずしてさつゝ行つてしまふ。其處に非常の力がある。しかし子供の教育においては其處まで禪味を發揮してはどうも仕方があり、不用意ではあるがその不用意と不用意とがぶつかることに意義がある。

月天真座頭つきあたり笑ひけり

さいふ句が蕪村にあります。冬か秋の末であります。こちらから座頭が來る、またあちらからも座頭が來る、三三五打つかつてはつゝ笑つて去つて終ふ。傍から見れば月があるのに打つかつたといふ不用意の面白さがある。この不用意と不用意を打つかけ合す機會として、さつちからか先へ出發した怪我といふものは非常に有害なものであります。さつちからも先へ出發してはいけません。雙方が或一つのこゝによつて不用意に或感じを起し、また一方も或感じを起し、それが或問題を中心として打つかかるといふ風でなければいけない。露天保育で野原を歩いて居れば、その機會が與へられる。しかし窮屈に限定された教室ではそれはなかなか出來ません。總てのものが先生が先へ作つて置いたのですから、教場で不用意を出さうと思つても先生には出て來ない。何か机の上に花を一輪活け、今日は子供にこの中から一つの興味を引

き出させ、さうしてそれによつて教育をして行かうといふ考へをもつて花を置いて置きます。さうするこ子供はその花を見て、或自發的の興味を其處に引き出さうとする。それを見て先生は自分の與へようとした目的にうまく嵌つたなと思ふ。さうするこ子供はまた先生が出たなと思つた瞬間に折角出かゝつた自發性は引込んで終ふといふことになります。しかし先生こ子供こが不用意に野道を歩いてる時に鶯が鳴く。これは先生の計畫して置いたのではない、鶯は鶯としていい聲で勝手に鳴いてゐる。それを子供も先生も同時に聞いて「へえですね」と打つかつたところに不用意の、しかも一人の生活が引つ張り合ふところの機會が選ばれて來るので、この兩方が不用意で、しかも離ればなれにならずに、この生活の或断片を持たうとするために非常に都合のいいことになるこじふことを思ふのであります。子供の方から申しますならば、子供自身が無理な状態に置かれないと、教育者の方から申しますならば教育それ自身が自分の計畫の中に自分を取り込まれないために、随つてその教育者こ教育される子供この中に、何でも計畫ばかりのしつつこい中に膠づけられるやうなこゝが起らすして、不用意こいふものゝもつてゐる、しかも打つかり合ふところの野さいふもの、野外さいふもの、或は道路さいふものが、實によい場所であるこいふことを思ふのであります。

六

これは大體露天保育、或は家なき幼稚園さいふものゝ値打を、教育の働きの方から考へたお話であります。受ける方の子供、與へる方の教育者、要するに其處に教育の働きさいふものがあるのであります。その教育の働きさいふものゝ基を考へて、以上の教育原理が發揮されて行くのであります。しかも更に教育の内容の方からこの露天保育さいふものの値、或は長所さいふものが、さう考へられるかいふことは、その次に起つて來る問題であります。

この露天保育さいふものゝ教育の内容價值さいふものは、子供の身體上に及ぼすところの所謂衛生上さいふか、健康上

云ひますか、或は體育上云ひますか、さういふ方面の發達においてはいふまでもないこであります。充分に日光にあたり、よい空氣の中で、自由に駆けめぐるここの出來るいふこによつて子供の健康が、空氣の悪い、窮屈に腰をかけてゐる室内教育と大變違つた結果を來すここは、これは申すまでもないこであります。其處で露天教育が子供の衛生のために、健康のためにいゝこゝは特に申上げる必要はないと思ひます。

然して此の他にどういふ效果、又長所が残つてゐるかといふ。これについてはいろいろのこゝが考へられるので、例へば問題を狭く限つて行くならば、博物教授といったやうな立場からいびます時に、戸外の教育が非常に好都合であるこゝは勿論いふまでもありません。今日でも他の學科の先生は子供を教室において教育することに努めますが、自然科學の先生は戸外に連れ出すこゝは普通のこゝであります。標本をもつて來て見せるよりも、生きた自然に接せしむる方が科學としても便利であるといふこゝは申すまでもありません。併ながら自然といふものに子供を接觸させて行く利益といふものは、或は博物的知識を與へるといふ方の價値、或は自然によつて身體が健康になつて來るいふ生理上の價値などほかほかの外に、もつと非常に深いいふか微妙といふか、或重要なものがあるこゝを思つていゝと思ふのであります。

今日我々はこの自然を離れてしまつた生活をやつて居りますが、自然といふものは我々が想像する以上に我々に深い密接な關係をもつて、人間の生活を支配して居るこゝが感ぜられます。或は自然の宗教といふやうな形において人間の生活の上に感ぜられ、また自然の教訓といふやうな意味において感ぜられ、また或は自然の詩といふやうな意味において感ぜられたり、その人によつていろいろな感じ方、現はし方をしますが、兎に角非常に深いこゝにおいて人間の生活もつて來るこゝは誰でも思ふこゝであると思ひます。その自然が人間に非常に深い關係をもつて來るこゝを、殊に子供の場合について考へて見ますならば、子供は自然によつて多くの利益を受けるいふこゝの外に、自然に向

つて最も親しみ得るところの自然の直線の交渉を、自分の心に感じて行くことは出来る。非常に都合がいいといふ言葉は打算的言ひ方であります、つまりさういふ心の状態であると思ふのであります。其處で我々が自然から教訓や利益を得るといふことはよりも何層倍か細やかな、そんなに深くもなく、大きもありすまいが、細やかな意味において自然からいろいろなものを子供が受け入れることは、これは想像出来ると思ひます。この自然から子供が受け取つて行くところのいろいろな意味、或は利益、或は内容といふものは、自然に關する標本を持つて來ても、寫真をもつて來ても、繪を見てても、話をしても、それによつては到底出來ないことで、どうしても自然の世界へ子供を連れて行くことは外に出來ないこゝであります。この自然といふものに直接に子供を觸れさせて、自然がもつてゐるところの眞生命を子供に與へて行くといふ意味におきまして戸外の露天保育といふものが非常な意義と價値をもつてゐるこゝは、殆んど云ひ現はしようもない細かさと深さをもつてゐるものではないかと思ひます。

今日教育において戸外が必要であることは誰もいふことはあります。殊に身體の弱い子供の爲めに、衛生上の立場から、戸外生活を主張し、或は戸外學校とか、屋上學校とか、所謂オープンエヤスクールといふことは誰もがいふことはあります。併ながら戸外へ出て子供が戸外から受ける利益は、その中に日光、酸素といふやうなものが子供の生理的及び心理的方面に及ぼすといふだけではなく、自然に直接に觸れるこゝによつて、子供の一種の靈感をも申しますか、スピリチュアといふ方面に非常の影響を及ぼします。さういふ意味から戸外の教育といふものに對して餘程意義を感じることが出来ます。

この他に子供のスピリチュアといふ方面に及ぼす自然の影響といふものは、どんな性質でどんな種類のものであるか、これをいろいろ分解することが出来ると思ひます。

まづ第一は自然がもつてゐる美しさ、即ち自然美を申しませうか、片方に翠の色があり、片方に桃色があり、蒼い空があり、その下にまた白い砂があるといふ、自然の色彩及び形態、調和等から来るところの美しいふものは、單に色それ自身、或は形それ自身として我々の心に一種の影響及び、快感を與へるばかりでなくして、その色彩を透し、線を透し、形を通し、調和を通して我々の中に非常に細やかな心の感触といふか一種の感じを作つて来る大きな力をもつてゐるものであります。自然のもつ、あの色と形は實に上つ皮の色紙に現はれたる色、或は着物に現はれたる形の如き一種の興味本位において、淺薄なる玩弄的意味において、それを樂しまうとするやうな心を打ち破りまして可なり深いところを子供の心中に及ぼして、その子供の感触の細かさといふものを養ふ上に大きな影響をもつてゐるといふことは、これは今日我が屢次聞きますところの藝術教育或は情操教育といふやうな問題、餘程深い關係をもつて我々に考へられる問題ではないかと思ふのであります。

今日は藝術教育といふことが非常に盛であります、所謂美に關する方面的教育を子供に與へなければならんといふことを時に云ひますが、これは勿論非常に大切なことでありまして、藝術教育は何處までも我々が力を盡さなければならんここであります。ところがその藝術教育といふものゝ本當の目的は、何處にあるかといふ、藝術教育は、藝術といふ形において現はれた色の美、形の美、或は旋律の美といふものを美術の形として受取らせることが藝術教育の本位ではあります。藝術を理解し藝術として味はふといふ意味に、若し止まるならば、藝術教育は我々の教育する所謂普通一般の子供の教育には、それほど重大な價値をもつて來ません。また特殊なる人間の技能、特殊なる力をしてさういふ方面的養成をしやうといふやうな意味でありましたならばその場合における藝術教育は、藝術を藝術として味ひ、また創作するところの力を養ふところの目的を達することでありませうが、一般の子供の人性教育として考へる藝術教育の重要な

さは、その藝術教育によつて人間性そのものゝ深いところの教育をして行かうといふものが目的ではないかと思ひます。色を與へるこゝによつて色に關する知識を得、形を鑑識するこゝの能力が發達したのではない。藝術教育を與へられたために音樂を聽く耳が出來たこゝではない。それでは藝術教育の本當の深いところには行きませんから、まづ子供の眼を教育し、耳を訓練し、旋律に對する微妙な練習を與へる場合もありませうが、若し藝術が其處に止まつて藝術教育を受けるこゝによつて、所謂感覺の鑑賞に關する方面の能力だけが發達したこゝならば、これは特別なる教養として意義のあるこゝではありますまいが、人間教養としては其處に止まるのは甚だいけないのであります。のみならず更に考へなければならぬことは藝術教育といふものは理論的にはその美しい色や形やを通して、人間性そのものゝ奥底に教育效果を與へて行く筈のものでありますけれども、時にはその藝術教育を與へる人の如何によつて、單に子供の眼を藝術に馴れしめ、耳を藝術的ならしめ、身體の動作を藝術的ならしめ、所謂藝術の藝術としての根本を與へるに止まり、深い人間性の教育は出來なくなるこゝも起るのであります。私は理論的に考へられた藝術は人間性の奥底に發するものであつて、美しい繪が描けるこゝでも、その繪が單に美しいばかりでなく、もう一つ深い人間性の奥底に觸れた、その人だから流石に色が明るいこゝか、人間性がデリケートだから繪が細かいこゝるものがある筈だと思ふのであります。實際は必ずしもさうならないこゝろに實に藝術教育の難かしいこゝろがあります。所謂藝術教育が、時に道樂教育となり、或は通人教育となり、デレッタントとなるこゝの危險は、つまりこの點を指示するものであります。

子供が繪が非常に美しく描けるこゝは、その繪の描けるこゝによつて人間性の奥底が養はれ、それが養はれたから美しき繪が描けるこゝは教育としての藝術教育としては我々は希望します。こゝろがさうも繪の描ける、或は色の判る、音の聞える、音樂や、踊のうまいこゝに止まつて、人間性の奥底まで行かない、趣味的な教養をあまり

受けながらつたならば却つて眞純な人間性の訓練が出来たと思ふやうなことが屢次あるのであります。これは藝術教育の缺點ではなくも遠方の間違いで、其處に屢次いろいろの弊が起ります。併ながら藝術教育を以て美しい色が判り、繪を樂しみ得、趣味の高い人、趣味の進んだ人を作り、その人の趣味性に基いて人間の生活の上に多少心靜かなものを與へるといふならばこれは異論はない。藝術教育はあの藝術に現はれた特別の力によつてゞなければ出來ない人間性の教育をしてやるのが藝術教育で我々は藝術によつて藝術を教育しやうと思ふのではなくて、人間性そのものゝ眞純なる教育を狙つてゐるのであります。それでいろいろの方法をやりますが、さうも本當の深い細かいところまで行き得ない、その他の方法では到達し得ないものを偉い藝術家の描きました繪によつて、或は音樂の曲によつて、子供の人間性の奥底に、或教育の效果を來すといふことが、藝術教育をさするならば、我々の藝術教育の時に誤り易いものがあることを發見されるかと思ひます。藝術の有つてゐる特殊なる力によつて子供の人間性そのものゝ奥底が教育されて行くとするならば、藝術を尊重するゝ同様の尊重を自然に向けなければならぬといふことは云ふまでもないこゝに思ひます。私はいつでも思ふのであります。今日の我々のやつて居ります教育において實に足りないと思ひ、さうしても我々所謂教育者の力では出來ない何ものかに頼らなければならぬものが三つあります。即ち藝術と宗教と自然のこの三つで、これ等は我々教育者の教育を範圍内ではなし得ざるところの深い力であります。其處で我々は自分の教育を本當の人間性の深きまでの教育として考へるならば、どうしてもの三つに頼つて、これを背景として、さうして自分の足りないところを補つて貰はうといふことが痛切に感ぜられるのであります。その一つの自然については、今日非常に盛であるところの傾向は藝術教育であります。若し藝術教育といふものを今申上げたものと解して間違いないものしたならば、直ぐに移して自然を子供に與へるといふことによつて價値を認めることが出来ると思ふのであります。しかも今日の教育において子供に自然を與

へるために力を盡してゐるといふことは實に少ないのであります。子供の身體のために自然が大切なことを位は知つて居ります。自然に關する博物的知識を與へることが必要だといふことを位は知つて居ります。しかし自然の生命に頼らねば出來ないある教育が、我々自身には出來ないで、自然によれば出來るといふその意味において、教育が自然に行つて額づくといふことは非常に缺けてゐるので、この缺けてゐるもののが露天保育、戶外教育においては自ら與へられて來るのではないと思ひます。更に自然といふものが人間性に及ぼして來る、その大きな效果は、自然のもつて居ります所謂自然美といふものが、子供の心に影響を與へるといふことを外に、もう一つ非常に大事なことをあるのではないかと思ひます。

八

自然といふものが子供に與へて來ますところの、或は人間に與へる效果は、その自然の表面に現はれてゐる、あの色とか形とか、調和とかいふ、所謂美名付け得らるゝところの現はれの外に、適當なる言廻し方を充分にすることが出來ませんが、自然が自然であるといふこと自身、それが人間性に與へる大きな意義であります。例へば野に行き、一輪の花が咲いてゐるのを見て、全く何の感じもない人、その自然に觸れるこの出來ない人は、自然を見て居りながら實は何にも見ない人です。しかし一步進んだ人は、あの色が美しいとか、枝振が美しいとか、その自然美を鑑賞し影響を受けます。併ながら自然の自然たる意義はたゞさういふ姿をして存在して居るといふこと自身です。誰が拵へたのでもなく、何の爲に拵へたのでもなく、又自ら其處に在らうとする人爲的努力によつて存在するのでもなく、たゞそれ自身が、その姿を、あるが儘に存在して居るといふ、この大きな事實こそが自然の我々に與へる大きな意義であります。言ひ現はし足りないことを恐れますが、例へば都會生活をしてゐるものが久振で山を見ますと、はじめはその色を見、或は形を考へます。併ながらその山に對し、その山の上に在る時には形や色を離れて、或大きなものがあるといふことを誰でも感じます。それは

山の嚴そかなこゝ、大きなこゝ、高いこゝが壓迫してゐるからだと云ひますが、こちたき理窟^{くわく}、論議を離れて、自然が自然であるといふことは、これが非常に深い意味をもつてゐるのだと思ひます。

私共の日常の生活は、實に理由なき生活を殆んども得ない。結果を來さうる生活を殆んど爲し得ないのであります。何のために存在し、何になるかといふことを離れて我々の生活は殆んどないといつてよいのであります。理由^{ゆう}と結果^けとの中に、總てのものが小さくへされてゐるその中に、發見されて行くものは論理的必然であります。論理上の必然を辿る時に、必然の結果として多少大きな結果を豫想することが出来ます。しかもその論理的の委^い託^{とき}の正確さを辿つて行つて、その必然に到達した時に、稍や廣い世界に出たけれども、其處を通つて行くといふことによつて我々の小さい苦しさを感じるのです。そこらが必然よりももう一つ大きな基^{もと}になつてゐる自然であるといふことは、實に深い意味をもつてゐるのであります。ここらが必然よりももう一つ大きな基^{もと}になつてゐる自然であるといふことは、實に深い意味をもつてゐるのであります。我々は教育によつて人間をいろいろに良くして行かうと努力して居るに相違ないのであります。併ながら私は屢次思ひます。教育をするこゝによつて人間を良くして行かうとは思つてゐるが、さうも教育をするこゝによつて、自分の力で物をさう作り得るとか、他人をさう捌き得るかといふ能力以外のものになる、我々の教育の總ての場合において危ないこゝであります。人間の能力を教育によつてだん^{だん}進めて行くときに、能力としては非常に優れた或力を與へたのでありませうが、遂に能力以上一步も出るこゝの出來ない教育ならば、これが本當の人間教育の全部であるかさうかといふことを終始心配するものであります。我々はまた、この能力或は智力、技倆を通じて行つてだん^{だん}終ひにその能力から徹底したこゝの或大きな世界に人間を歸すこゝだとも思ふのですが、それが果して我々の教育こゝにふ拵へごとによつて何處まで出来るものかといふことは常に氣になるこゝであります。其處で我々から見ますならば、教育を受けてゐないから駄目だとも云へますが、また教育を受けてゐないから自然だといふ強味ももつてゐるあの小さな

子供に、その自然を失はせないで、本當の自然から自然へ導いて行く道はないかと考へます時に、あの自然から出て來た子供を我々の手で教育して、また自然へ歸すといふことはなかへ難かしい。のみならず自然から出たものを自然のまゝで行く方法はないのであらうかと考へますが、これ等は我々が教育を棄てゝ終ふといふ譯ではなく、教育は教育としてしなければならない人間のベストですが、同時に自然そのものゝ有つてゐる自然さを持ち耐へさせて行くことは出來ないだらうかと考へるのであります。

此處には教育者の方もおるでになります。そして貴女方もさういふ感じをお有ちになります。先程も申しましたやうに我々は子供の前に出るこ、子供が煩さがりはしないかといふ想像をもつてゐる。同時に我々は子供の前に立ちました時に、實に細工以上何物をもなし得ないといふことを思ひます。細工は目的ではなくて手段だといふことは知つてゐますが、細工以上何物をもなし得ないといふことを染々感じ、いろいろ工夫を凝らして教へてゐながら何といふ細工に止まるところの小さな生活を子供に強めるのだらうと思ふのであります。

このお話は青年の教育で、少し子供の教育とは違ひますが、一昨日實際に経験したことを一寸お話して見たいと思ひます。恰度私が教場へはいりました時に、ふと或生徒の顔を見合せました。するごとの生徒が私の顔をぢつと睨みます。私もその生徒の方をぢつと睨んで暫くの間一人で睨めつことをしてゐました。その時私はこれで教育が出来たらよいがといふことを思ひました。教育をしやうとすれば、今この私と學生とが睨めつことをしてゐる世界から、斯うしてあゝしてといふ細工の世界へ移らなければならぬといふことは非常に物足らなく感するこで、それを私は痛切に感じました。しかしこの二方が偉ければそれで解決が出来る問題でありませうが、普通の人間では自然の接觸といふやうな、自然によつて自然が育てられて行くといふやうなことはさうしても出来るこではありません。普通の人間はたゞ一生懸命教育して、一生懸

命細工するに過ぎない。要するに我々の教育は細工ばかりやつてゐる。細工が與へるもののは恐らく細工以上には一步もないだらう。いふことは我々は恐ろしいほどに感ずるのであります。

私が細工なしで生徒一人で歩いてゐても、空を見給へ、山を見給へ、いつ見せたのでは仕方がない。一人が歩いてゐるうちに同時に樹を見る、花を見る。さうした時に實に無細工の世界が私の前にも亦生徒の前にも展開される。その無細工の世界において何ものを得るかなといふそんな、細かい問題ではない。その細工のないところの自然さそれ自分が印象をそれに與へて来るに相違ない。これは少し深いところまで教育を考へてゐるものに直ぐ感じられるこります。

フレーベルは矢張りそれを感じてゐたのではないかと思ひます。部屋の中で子供の教育をしてゐる時に、野原の自然の空氣の中に子供を連れて行つたいふことは、一室の窮屈な中から遁れたいふ消極的のことではない。また無理から逃げて行く解放いふやうな意味ではない。たゞさうすることによつて、あの理窟を云はない、作爲のない自然に行くこといふことだけで充分なのであります。

しかしそんな話は話さしてはそれでいいが、そんなことが四つや七つの子供に判るかといふ御質問が出るだらうかも知れませんが私は實に子供は我々よりもさんなにか深く、さんなにか眞實に、この自然の自然さを受取る力があるのでいふことを信ずるのであります。今日の學校或は幼稚園において、さういふ意味のことをしてようとするこ非常に難かしくて出来難いのであります。今日行はれて居ります藝術教育が其處までのここを考へて居るかさうか知りませんが、藝術教育といふものゝ奥底を考へて見ますれば、やはり藝術教育は此處を狙つてゐるのではなからうかと思ひます。若し音樂を聽かせて置いて、あすこをお聽きなさいと説明が出来る範圍のものであつたら、本當の藝術教育いふものは出來ない。

藝術教育が本當に出來る範圍は人の描いたものではあるが、作爲を通り越して藝術家だけが有ち得るところの自然さ、即ち或偉大なる力をもつてゐる藝術品が子供に與へられ、綺麗さかうまいことかいいふことを超越してゐるもの、又は音樂によつて子供を教育する人間性の教育、藝術教育の奥深いところが期待されるこ思ふのであります。若し藝術教育もさういふ效果がありとするならばはじめから人の描した繪でなく、自然そのものゝ自然さに接觸されるこいふことは非常な深い意味を有つてゐるのではないかと思ひます。

九

斯ういふ風に考へて來ますといふこと、戸外へ子供を連れ出すといふことが、我々の豫想し得ない非常な或意味を子供に與へられてゐるのだといふことを思ひ得るのであります。其處でこの自然をして人間性の奥底までの影響を與へさせようといふ時に、自然を時々子供に與へるか、始終與へるかといふ問題が起つて來るのであります。子供に時々自然を與へるといふことは子供をして自然の效果を意識させる上においては非常に利口があるのであります。併ながらお話は元にかへりますが、意識するといふことが一種の故らな心持に近いものであるとするならば、其處に自然に與へられた效果を自然の前に得るといふこと、或は自然から教訓を受けつゝあるといふことは既に一種の故らの状態であります。自然といふものがそんなに非常に效果があるならば時々自然を見せたらいいぢやないかといふことを考へられるのですが、自然が自然であるといふことは子供をして自然に、自然的に接觸せしめ、自然的に受取らしむるに非ざれば本當に徹底して來ないと思ひます。皆さんが名所を見物にいらつしやる時にいろいろな利益を受けませう。或はまた、その得たところを特に文に綴るとか、歌に現はすきかなさるならば、それが自分にも他人にもどういふ風に自分が自然に接たかといふことがはつきりしませう。併ながらその自然といふものゝ眞實な影響は損はれてゐるこ申しませうか或

は眞純さを失つてゐるといふか、さういふことが起り易いのであります。其處で子供をして自然なる影響を自然から受けさせる爲には自然の中にあるといふことすら知らしめない程常に自然の中にあらせなければならぬといふことが論理上の必要條件になつて來ます。

この條件を充たすためにいろいろな方法をとり得ると思ひますが、殊に家なき幼稚園、露天保育といふものは非常に便利な方法と思はざるもの得ないのであります。斯くの如くして自然から人間性の奥深い或一つの教育を子供が受けてそれが終ひにさうなるであらうかといふ問題を考へて見ます時に、それは甚だ他愛ないここになるのであります。其處で得たところの利益が上級の學校に行き、入學試験の時に少しも役に立たない、或はこの世の中に出で活動する上に恐らく何の益にもならない、たゞその子供をして所謂眞實なる人間性に生かしめるといふこだけのここに止まるのであります。それ以外何の資本にもなるのではないのであります。併ながら今日我々が子供のために計劃つてゐるところの總てのここが要するに子供の生活に資本となるものばかり與へるといふことは一考を要します。或は手近なところで入學試験のこことか又は卒業してさうなることであるとか、或は世に出てさうなることであるとか、總てこの生活に役に立つこれらの意味ばかりを、我々は子供に與へる、もつて極端にいひますならば、今日の藝術教育といふものさへも、さうするこによつてさう役に立つかといふことを説かなければ承知出来ないやうな氣分がある。藝術教育ばかりではない。宗教々育といふものも、受けるところの效果を生活資本として考へることすら時になります。總ての我々の努力が子供を幸福にする、若くは發達させるこ稱して、或は子供に利益を與へるこ稱して、悉く子供の生活それ自身として内的に幸福ならしめ、それ自身として充實せしめるといふことではなくして、生活としての第二義的の價値において常に子供にいろいろなこをして居るのであります。我々は非常な理想論をする譯ではありませんが、さういふ生活、さういふ教育を始終して居りま

す時に、その真純なる生活から育つて行くところの真純なる人間性の生活といふものを子供の前に用意するところの用意は我々にあつてもよいかと思ふので、それを與へるために私共は消極的に云へば不用意なる、或は作爲のない、積極的に云へば自然が自然さにおいて子供に打つかつて行くところのものを始終我々は考へてゐなければならんのであります。それが我々のなし得る範圍においては、露天保育において認められるのであります。

+

假に露天保育、家なき幼稚園は不必要的ものではあるまいかといふ説も出ませうが、勿論家なき幼稚園とか露天保育といふものは、家のないいふこゝろ、それ自身にこだわつてゐるものではないと思ひます。さうして家こいふ建物によつて生じて來るこゝろの教育上の眞實なる教育としての或缺點を遁れやうかと思つて、その正直なる悩みといひますか、眞實なる努力といひますか、さういふものが見出したこゝろの一つの道が家なき幼稚園、或は露天保育であるこ考へるのであります。若しこゝに非常に偉い方がありまして、その人は家の中に居れども家を超越してしまふ。窮屈な教場にはいつて机に腰をかけさせてはゐるが、その先生が前に立つて天井も柱も壁もなくなつて、實に天空快闊な心持に子供が自然になれる。あの先生の云はれるこゝは口を開けば野の聲がする。あの先生の一舉一動には野の廣やかさを見るこゝが出来る。そして其處には作爲は一つもない、たゞ壁と天井をつき破るこゝろの自然さがその先生にあつて、子供を自然に置くだけの力を有つ人ならば、家の有無はそんな大きな問題では無くなつて來るこ思ひます。今日の所謂學校、所謂幼稚園においては我々人間の教育者としての足りないこゝろを建築によつて補つて行かうといふ、その方法に長く進んで來たのであります。教授をしてゐるうちに何處かへ子供が行つてしまつては困るから壁で仕切りをして見たり、ばた／＼飛び出しては困るから席を與へて見たり、畢竟教師の教育上の微力を補ふ手段としていろいろなものを工夫して來た努力であります。

ところが今日はあまり工夫努力が進んでしまつて、終には教育者が自分が教育をするんだといふ本體を忘れて、補助の方に重きを置いて、それが無ければ何にも出来なくなつてしまつた。その壁や教壇によつて漸くに教育をしてゐながら自分でしてゐると思つてゐるのであります。ところが或人がそれについて妙な感じを起し、いろいろ考へた結果、机や壁が非常に邪魔になるといふことに気がつき、一緒に野原へ行かうぢやないか、一緒に往來を歩かうぢやないかといふことに行きついたのであります。私はこの意味において家なき幼稚園或は露天保育といふものは、今日の建築をもつて居るところの教育機關を悉く潰してしまつて、野外教育にしなければならんといふ譯のものではないと思ひます。

私は露天とか戸外といふことに實にいろいろな意味を感じるのであります、露天といふ言葉から直ぐに出て来る最大きな一つの聯想は基督の言葉であります。基督は殿堂はなくとも祈禱^{いのり}は出来る、何處で禱つてもいいのです。それは多分心持を纏めようと思つて作った會堂そのものが主になり過ぎるといふことに對して、寧ろ野でもいい、野に行かうといふ意味であると思ひます。露天保育も同じやうな意味に解釋してよいと思ひます。何も建物があつてはならん、學校があつてはいけぬといふ破壊的運動ではない、今日の教育が正直なる教育者があつてゐるの妙な感じ、即ち子供を前に置いて懃^きららしい心において教育をして居つた人が、一寸眞實の心に歸つた時、いろいろの疑ひが起る。或は自分の立案はいゝけれども折角の子供に自然に出て来る教育の機會を無視してゐるといふことはないだらうかと問へたり、或はいろいろなこゝを作りつくりて教へてゐるが、下手な役者がこれでも感じないか、これでも感じないかと力んでゐるこ同じやうに教へてゐるが、これでいゝのかしら、どうも本當に子供を教育することが出来ないismanした時に、自然さそのものに基いて行くことは出來ないかと思つて、正直なる現代教育の惱みを徹底させたものが露天保育ではないかと思ふのであります。この意味で露天保育はこれに從事する人のために意義ある問題であり、教育の一種ではあります。

三角の學校を建てるか野原でやるかいふやうな教育の一部分ではあります、が、今日の總ての正直なる教育者自身が悩み悩んでゐる悩みの一つの活路であります。

十一

この意味で家なき幼稚園、露天保育は教育全體の共通なる一つの大問題を我々の心に與へて呉れる意義あるものではないかと思ひます。貴女方が橋詰さんのやつて居られる「家なき幼稚園」或は大阪に在る露天保育を御覽になつた時にお感じになることゝ思ひますが、教育の道實に廣しで、いろいろな方法がありませう。そしてまたその方法としてはさの方法も皆さうせ不完全な方法で、家中に入れて置けば怪我をしないが、野外ではたまには怪我をしませう。どちらにも何れ缺點はありませうが、その一つの方法としてこの問題を追窮するのではなくて、教育者が眞實なる兒童性そのものに眞實に觸れて行つた時、其處に生ずる正直なる悩みが趣く一つの道として、我々は意義あるものと思ふのであります。若し建物の中で本當の露天の如き保育が出来る方があつたならば、これはまた非常に優れた偉大な方であらうと思ひます。さうしても建物が邪魔ならば野に出てもいいでせう。さうしてまた建物に歸るならば、その心持でもう一つ建物を活かす方法があるこ思ひます。露天保育につき私の感じました點を申上げまして、その問題それ自身いふものよりも、この問題によつて我々の教育そのものを考へて見た次第であります。(完)